



無所属 一人会派
HP「辻よし子と歩む会」で検索



☎ 197-0802

あきる野市草花 3012-20

T&F : 042-559-6941

携帯 : 090-9386-1275

e-mail : kusasigi@nifty.com

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

9月議会の一般質問
& 補正予算審議

問われる市長としての公平性の認識

～不透明な瀬音の湯レストランの業者選定～

出来レースが疑われる業者選定の資料

瀬音の湯は、市が新四季創造株式会社（以下、新四季）に指定管理を委託している公共施設であり、新四季の社長は市長です。新四季では経営改善のために、これまで直営だったレストランを今年度から外部に委託しました。出店者の募集は新四季のHP上で行われ、公表から締め切りまでわずか2週間。そこに3社が応募しましたが、選定に関する資料を情報公開で入手したところ、驚くような事実が明らかになりました。

選定方法は、3社からの提案書を審査員3名（新四季の当時の部長職等）が項目毎に評価し、現在レストランを運営しているA社が高得点で選定されました。ところが不思議なことに、収支計画や実施

スケジュール等、提案書に書くよう指示されていない項目が、なぜか評価項目には含まれていました。そして、3社いずれの提案書にも記載がないそれらの項目について、なんと、A社だけに高い得点が付けられていたのです。また、店内のデザインも提案の指示はされていませんが、なぜかA社だけが写真やイラストを豊富に使った詳細な提案をし、審査員3名全員が満点を付けていました。他の2社には0点を付けている審査員もいました。

さらに、応募要領では「出店者募集」となっているのに、A社の提案書のタイトルだけは、「瀬音の湯レストランリニューアル企画書」となり、表紙には応募3ヶ月前の日付が入っていました。これでは出来レースと疑われても仕方ありません。

9月議会
ポイント

- 問われる市長としての公平性の認識 (1-3頁)
- 野辺の区画整理、工事一時ストップに (3頁)
- 決算特別委員会の質疑から (3頁)
- すぎの子保育園の新規入園児の受入れ停止に関する陳情 (4頁)
- 議場での国旗・市旗の掲揚に関する陳情 (4頁)

賛否の分かれた主な議案 (9月定例会議)

(○：賛成、×：反対)	くさしぎ (辻1人)	自民党 志清会 (議長を除く10人)	公明党 (3人)	共産党 (3人)	未来 (2人)	リメンバー (1人)	結果
補正予算第6号 (五日市駅前市有地開発予算含む) (2頁)	×	○	○	×	○	×	可決
2022年度 一般会計 決算 (3頁)	×	○	○	○	○	○	認定
2022年度 引田駅北口区画整理事業 特別会計決算	×	○	○	×	○	○	認定
すぎの子保育園新規入園児の受入れ停止に関する陳情 (4頁)	○	×	×	○	×	○	不採択
議場での国旗・市旗の掲揚に関する陳情 (4頁)	×	○	○	×	×	×	採択
4名の議員に反省を求める決議 (3頁)	-*	○	○	-*	○	×	可決

*当事者は審議に加わることができない (地方自治法 117条)。

そして、A社の社長は、後述の五日市まちづくり協議会のメンバーであり、駅前市有地の開発に関する市への提案書をまとめた責任者です。

一般質問では上記の事実を示し、瀬音の湯レストランの業者選定過程の調査と、その結果が明らかになるまで駅前市有地の開発も一旦立ち止まることを市長に求めました。

市長からは、「昨日そういう質問がされることを知ったので、今朝A社の社長に直接電話で確認を取ったところ、以前使った資料の日付がそのまま残っていた可能性があるようだ」という内容の答弁がありました。公正性の疑われる問題が発覚した際、市は行政組織として慎重に調査を進めるべきであり、いきなり市長自らが当事者に連絡を入れたことは、市長の対応として不適切だったのではないのでしょうか。そして図らずも、市長とA社の社長との関係性が露呈した結果となりました。

駅前市有地の開発に問われる公平性

五日市駅前の市有地開発に反対をしている大きな理由のひとつは、前号にも記した通り、市長の議員時代あるいはそれ以前からの限られた人間関係の中で、市の事業を進めようとしていることです。

庁内会議の議事録を確認したところ、中嶋市長は就任直後に市有地開発の指示を出し、既にその時点で2025年度運用開始というお尻を決めていたことが分かりました。そして、五日市まちづくり協議会（以下、まちづくり協議会）からの提案を待って開発計画を進めることも、当初から決められていました。時間的にも手法としても、開かれた市民の参加が想定されていないということです。

まちづくり協議会の発起人（のちの事務局）は、当時の中嶋議員が会長を務めていた五日市活性化戦略委員会（以下、活性化委員会）と五日市商和会です。しかし、活性化委員会の議事録には組織として関わった形跡がありません。その一方で、あきる野市が活性化委員会に交付している補助金（当時も会長は中嶋氏）の一部が、まちづくり協議会の活動費として使われています。2022年度のまちづくり協議会の活動費約57万円は、ほぼ全額が同会HPの作成・運営委託料になり、委託先は、

活性化委員会のメンバーが経営する市外の会社です（領収書に一部不備があることも分かり、決算特別委員会で指摘しました）。

一般質問で上記の事実を示し、市長が議員時代に立ち上げ、関わりが非常に深い団体からの提案を受けて公共施設を造ることは、市長として公平性に対する自覚が足りないのではないかと質しました。中嶋市長は「辻議員が調べた仮説の中で公平でないと言われているが、私は別に公平ではないことなんてやっているつもりがない」として、活性化委員会について長々と説明し始めました。議長が途中で制しようとする「勝手に仮説を立てられてさ、冗談じゃないよ」と議長にも食ってかかる始末。私は事実をもとに市長としての姿勢を質問したのですが、まともな答弁はありませんでした。

3億円の建設工事に向け、測量設計の補正予算が可決

駅前市有地の開発については、約3600万円の測量設計委託料が補正予算に計上され、9月議会初日に審議されました。工事費は3億に上る予定です。本来当初予算に計上すべき内容であること、市民との合意形成が果たされていないこと、公共施設全体の管理計画から逸脱していること、職員体制が万全でないこと等々の問題点を挙げ、市長に答弁を求めましたが、市長はだんまりを決め込み一切答弁に立ちませんでした。

こうした横暴とも言える進め方に異議を唱えるため、測量設計委託料を削除した修正予算案を共産党と共に動議で提出しました*。しかし、残念ながら誤字と表記のミスが見つかり、取り下げざるを得なくなりました。修正予算案の提出は、初めての試みであったにもかかわらず、専門家の力を借りずに複雑な予算書の作成を自力で行ったため、中身に誤りはなかったものの、形式上のチェックが不十分になってしまいました。この点については、たいへん反省しています。議場で謝罪すると共に、各会派の控え室を回って謝罪し、執行部の方々にも謝罪しました。

*議会は、市長が提案した予算案に対して、その場で修正案を提案することができます。

驚きの「反省を求める決議」

9月議会最終日に自民党志清会から、前述の修正案を提案した私と共産党3議員を名指しにした反省を求める決議文が動議で出されました。補正予算の審議に真摯に向き合う中で起きたミスに対して、まるで見せしめのように決議が出されたことに、ただただ驚きました。議会の決議とは議会の意思を対外的に表明するものであり、「市民生活に直接かかわる緊急、重大な事項」に関するものと明記している議会もあります。

決議文を読んでさらに驚いたことに、ミスを厳しく責めるだけでなく、議会運営委員会で伝えず、「水面下で一部の会派にのみ事前に情報提供された」ことは、「公平ではない」「不誠実な態度」と批判しています。しかし、修正案提出にあたって事前に議会運営委員会に報告するなどという議会での取り決めはありません。また、「水面下で一部の会派に」とのことですが、修正案の提出には2人以上の提案者が必要なため、五日市駅前市有地の開発に疑問を呈している会派に声を掛けたま

2022年度 決算特別委員会

決算では税金の使い途に必要な透明性の観点等から問題点を指摘し反対しました。以下、改善に向けて質問した事業の中から、2点紹介します。

●町内会・自治会・子ども会などによる資源回収の奨励金の見直しを

昨年度の資源回収の奨励金の総額は約2,000万円で減少傾向にあります。団体数が年々減少しているだけではなく、継続している団体においても活動の担い手が減り、個々の負担が増えているのではないかと思います。

そうした中、奨励金の単価は2009年に一旦引き下げられて以来、14年間据え置かれたままであることが分かりました。リサイクルの必要性が高まる一方、資源回収を担う市民団体の負担が増していることを考えれば、単価の引き上げを検討する必要があるのではないかと意見を述べました。

です。自民党や公明党の会派に声を掛けようと思わないのは当然でしょう。

政策に対する意見の違いを闘わせる場が議会であって、意見の違う相手を叩く場が議会であってはならないはずです。

一般質問の動画をぜひご覧ください。市長への質問は、14分以降から。



野辺の区画整理、工事一時ストップに

野辺の土地区画整理事業は、3月議会の一般質問で指摘した通り、業者の提出資料に重大な誤りがあり、当該地は浸水想定区域に入ることが、9月議会の一般質問で確認されました。現在、東京都の指示によって工事は中断しています。今後、誤りの原因を追究することと、適切な浸水対策を業者に講じさせることが、申請段階で誤りを見抜けなかった行政の責任と言えるでしょう。

決算特別委員会の質疑から

●会計年度任用職員にも研修の機会を

現在正職員約450人に対して、約830人もの会計年度任用職員が業務に当たっていますが、昨年度、職員課が行った研修の対象は正職員のみ。一方、部署単位の職場内研修については、会計年度任用職員が参加している部署もあることや、パソコンで個人情報扱う会計年度任用職員に対しては情報システム課による研修が行われていたことが分かりました。しかし、保育園や小中学校の会計年度任用職員については、研修の必要性が高いものの未だ実施されていません。現場で働く会計年度任用職員についても、研修の機会をつくるよう要望しました。



陳情

9月議会では7つの陳情が出され、6つが不採択になりました。討議せずに多数決で決める委員会の在り方に特に疑問を感じた審議でした。(私の所属する委員会に付託された陳情はありませんでした。)

すぎの子保育園の新規入園児の受入れ停止に関する陳情

戸倉地区にある市立すぎの子保育園について、来年度から新規の園児受入れを停止するという事実上廃園の決定が、何の事前相談もなく一方的に保護者へ通知されました。この決定通知の在り方に疑問を抱いた保護者と地域住民が、決定を一旦保留にし、保護者や地域住民と丁寧な話し合いをするよう求めたのが今回の陳情です。

審議の冒頭、自民党議員の質問に答える形で市長が「決定を一部変更し、在園児の年齢(3～5才)の園児だけは受け入れる」という、通知から1ヶ月足らずの、これまた突然の方針転換を公表しました。自公の委員は、事前に答弁内容を知っていたかのように、市長の「英断」を褒め称える発言をしました。しかし、そもそも市の強引な決定の仕方が間違っていたのであり、そこに陳情や署名等、保護者と地域住民による民主主義の力が働き、変更せざるを得なくなったのが実態でしょう。

本来の常任委員会の役割は、市の決定過程の妥当性を検証することでしたが、その質問がないまま、自民・公明・立憲の反対で不採択になりました。つまり、3年以内の廃園は決定事項であり、保護者や地域住民と話し合うつもりはないという市の姿勢を議会が認めたということです。今後の公共施設の統廃合の在り方を考える上でも、あり得ない結論です。

議場での国旗・市旗の掲揚に関する陳情

議場の正面に日の丸を掲げることが求めた陳情が採択されてしまいました。国旗の扱いは、それぞれの国家観、歴史観と深く結びつき、憲法19条に保

障された思想・良心の自由として、個人の判断が尊重されるべき問題です。しかし、自公の議員に共通した賛成理由は、他の多くの議会で正面に掲揚されているからというものであり、少数者の思想・良心の自由と人権については全く触れられませんでした。

昨今、国際社会の分断が深まり、日本においても排外主義的な社会の雰囲気が強まっているように感じます。そうした中、議会があえて国旗を議場正面に掲げることは、社会の分断を助長し兼ねず、また、差別への不安を抱えながら暮らす在日外国人に対する配慮に欠けた行為といわざるを得ません。

国旗の取扱いについて、安易に多数決の原理で決着させることは、民主主義に反する行為であり、断じて認めることはできません。

市の課題が
よく分かる

会派くさしぎ

辻よし子の議会報告会

9月議会のポイントを
分かりやすくお伝えします!

議会の様子が
よく分かる

11月5日(日)

14:00～16:00

あきる野ルピア3階

集会室

申込み不要・参加費無料

会派「くさしぎ」は、「草の根市議」から取った名前です。政党や大きな組織に属さず、市民の横のつながりを大切に、草の根民主主義を目指して活動しています。

現在は、辻よし子だけの一人会派です。

*クサシギは水辺の野鳥です→



辻よし子プロフィール：1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で初当選。ここで9年目に入る。常任委員会は環境建設委員会。広報広聴委員会委員長。夫、次男、ネコ1匹と草花に暮らす。HPをご覧ください!

